

戦争の記憶 海中静かに

阿久根沖写真公開

太平洋戦争末期、阿久根市折口の脇本海岸付近に不時着した旧海軍の戦闘機「紫電改」の引き揚げを目指す市民団体などは19日、前に続き潜水調査をした。



「紫電改」左翼に20ミリ機銃



④戦闘機「紫電改」の2連式20ミリ機銃とみられる物体。18日、阿久根市脇本海岸沖(山本遊児さん提供) ⑤エンジンや操縦席とみられる残骸。同

紫電改の特徴である2連式の20ミリ機銃とみられる物体を左翼に確認したとして、写真を公表した。18日は水中文化遺産カメラマンの山本遊児さん(福岡県那珂川市)らが両翼や機銃のような残骸を見つけていた。19日は東海大学(岡市)の木村淳准教授(水中考古学)が加わり、金属探知機で探索。木村准教授によると、操縦席やエンジンを含むとみられる機体本体が長さ5.5メートル、幅1.5メートルほどあった。尾翼など機体後部は確認できなかった。翼の長さは左5.2メートル、右5.4メートル。操縦席を中心に直径15メートルの範囲を調べた。木村准教授は「両翼をはじめ、予想以上に残っていた。金属疲労の状態は分からない」と説明した。調査を呼びかけた「紫電改・林大尉機を引き揚げる会」の肥本英輔代表は「引き揚げへの思いが強くなった。適切な方法を考えたい」と語った。

2025年4月20日付1面

【問1】 海底に沈んでいた紫電改とは、何の名称ですか。次のア～エから選びましょう。

ア 軍艦 イ 潜水艦 ウ 戦闘機 エ 爆弾
(**ウ**)

【問2】 潜水調査で確認された上の写真に写っているものは何ですか。

(**2連式の20ミリ機銃**)

【問3】 今回の調査に協力した山本遊児さんと木村淳さんの専門分野は何ですか。それぞれ答えましょう。

山本さん(**水中文化遺産カメラマン**)
木村さん(**水中考古学**)

【問4】 紫電改は、いつどのような経緯で不時着しましたか。

いつ(**1945年4月21日**)
経緯(**米軍と交戦**)

【調べてみよう】 あなたの住んでいる地域に残る戦争関連遺跡について調べてみよう。

むずかしい漢字とことば

不時着(ふ・じ・ちゃく)
戦闘機(せん・とう・き)
紫電改(し・でん・かい)
潜水(せん・すい)
機銃(き・じゅう)
左翼(さ・よく) = 左の翼(つばさ)
遺産(い・さん)
残骸(ざん・がい)
探知機(たん・ち・き)
操縦(そう・じゅう)
倉(ふく)む 幅(はば)
尾翼(び・よく) 範囲(はん・い)
金属(疲労きん・ぞく・ひ・ろう)
呼(よ)びかけ 大尉(たい・い)
搭乗(とう・じょう)
少佐(しょう・さ) 昇進(しょう・しん)

